

快適な水道水の利用が健康増進に果たしている役割など、水道利用に関するソフト面の観点からの研究を進めることも必要である。

3 生活環境安全対策研究分野

シックハウス症候群、レジオネラ属菌対策等、当初、未解明な分野に関する知見が確実に集積され、具体的な対応策につながっているが、未だ不明な部分も多く、さらなる調査研究の推進が必要である。

4 健康危機管理・テロリズム対策システム研究分野

テロリズムを含む原因不明な健康危機にも対応可能な健康危機管理基盤システムについての分野横断的研究が求められており、特に、①機動的かつ体系的な初動体制の確保、②危機情報の共有・活用のための情報ネットワークの構築、といった課題を中心に研究を推進することが必要である。

3. 総合評価

国民の生命・健康の安全を守ることは国家の責務である。本研究事業における個々の研究結果は、健康危機管理対策として、体制の整備、関係者の情報共有等に活用されている。また、ガイドライン策定や基準値等の改正の際には、科学的根拠として活用されており、研究事業としては有用であると考えられる。

しかし、今後起こりうる健康危機はますます多様化、複雑化することが予想されている。迅速かつ適切に健康危機に対応し、国民の安全を確保するためには、引き続き研究の推進を図ることが必要である。

4. 参考（概要図）

平成20年度(案)

厚生労働省における健康危機管理関連研究の概要



4. がん研究助成金

事業名	がん研究助成金
主管部局（課室）	医政局国立病院課
運営体制	運営に係る事務については国立がんセンター運営局政策医療企画課にて行っている。

関連する「第3期科学技術基本計画」における理念と政策目標（大目標、中目標）

理念	健康と安全を守る
大目標	生涯はつつ生活
	国民を悩ます病の克服

1. 事業の概要

(1) 第3期科学技術基本計画・分野別推進戦略との関係

重要な研究開発課題	「生活環境・習慣と遺伝の相互関係に基づいた疾患解明及び予防から創薬までの研究開発」、「がん、免疫・アレルギー疾患、生活習慣病、骨関節疾患、腎疾患、膵臓疾患等の予防・診断・治療の研究開発」、「治験を含む新規医療開発型の臨床研究」
研究開発目標	<ul style="list-style-type: none"> ・2015年頃までに、疾患メカニズムの解明の加速、診断機器の高度化等による創薬プロセスの高度化を実現するとともに、個人の特性を踏まえた、生活習慣病等の予防・早期診断・先端的な治療技術や、難病の早期診断・先端的治療技術を可能にする。 ・2010年までに、がん、糖尿病などの生活習慣病や難病の治療・診断法を開発するための基盤を蓄積し、臨床研究につなげる。特に、生活習慣病に関しては、遺伝要因と環境要因に応じた疾患の原因を探求することにより、新たな予防・治療法へつなげる。 ・2015年頃までに、臨床研究を加速するための基盤を整備し、我が国の基礎研究成果から得られた技術が、革新的医療技術として速やかに実用化できる体制を確立する。
成果目標	<ul style="list-style-type: none"> ・2015年頃までに、生活習慣病改善のための施策の実施とともに、生活習慣病予防や治療に資する科学技術の開発を推進し、がんの罹患率や生存率、心疾患及び脳卒中の死亡率、糖尿病の発生率を改善させる。 ・2015年頃までに、生活習慣病改善のための施策の実施とともに、生活習慣病予防や治療に資する科学技術の開発を推進し、がんの罹患率や生存率を改善させる。 ・2010年頃までに、化合物選択の歩留まりを高めることにより、新薬開発期間を大幅に短縮し、2015年頃までに、革新的な創薬プロセスの実現により新薬開発期間をさらに短縮し、新薬開発コストを削減する。
戦略重点科学技術の該当部分	標的治療等の革新的がん医療技術

「研究開発内容」のうち、本事業との整合部分	<ul style="list-style-type: none"> ・がん予防に資する、がんの超早期発見技術などの研究 ・がん患者の生活の質に配慮した低侵襲治療や標的治療などの治療技術の研究 ・がんの生存率を向上させる標準的治療法の研究
推進方策	<ul style="list-style-type: none"> (2) 臨床研究推進のための体制整備 (5) 医療における IT の活用

(2) イノベーション 25 との関係（該当部分）

5つの社会像	1. 生涯健康な社会		
中長期的に取り組むべき課題	1) 生涯健康な社会形成 ②治療重点の医療から予防・健康増進を重視する保健医療体系への転換		
研究開発ロードマップにおける該当箇所			
(分野) ライフサイエンス分野	戦略重点科学技術	2010年頃までの研究目標（第3期科学技術基本計画期間）	2011年以降の研究目標（第4期以降）
標的治療等の革新的がん医療技術	がんの予防・診断・治療の研究開発	<ul style="list-style-type: none"> ・QOLの高い治療法の確立を目指して、アスベストによる悪性中皮腫の簡便かつ低侵襲な早期診断法の確立 ・重粒子線による膵臓がん等の超難治性がんの治療法の確立 	

(3) 新健康フロンティア戦略との関係（該当部分）

部	<ul style="list-style-type: none"> 1. 国民自らがそれぞれの立場に応じて行う健康対策 2. 新健康フロンティア戦略を支援する家庭・地域・技術・産業
項目	<ul style="list-style-type: none"> 2. 女性を応援する健康プログラム（女性の健康力） 4. がん対策の一層の推進 2. 人間の活動領域の拡張に向けた取り組み（人間活動領域拡張力）
対策	<p>第1部</p> <p>2(3)「女性のがん」への挑戦</p> <ul style="list-style-type: none"> ①乳がん対策、②子宮がん対策、③安心して利用しやすい検診体制、④がん患者に対する支援、⑤がんの研究等 <p>4(1)がんの早期発見の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ①「安心・身近な」がん検診の普及推進 (2)がん医療の提供体制の充実 <ul style="list-style-type: none"> ①オペ(手術)中心の治療から集学的治療への転換の推進 ②除痛、緩和ケアの推進と生活の質(QOL)の確保 ③地域のがん治療体制の整備 <p>第2部</p> <p>2 ②先進的予防・診断・治療技術の開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ③在宅医療技術の総合開発